

# 研究室紹介

## 言語データ科学コース

- データサイエンス研究室 金 明哲 MK612  
([mjin@mail.doshisha.ac.jp](mailto:mjin@mail.doshisha.ac.jp))
- 言語生態研究室 沈 力 MK710  
([lshen@mail.doshisha.ac.jp](mailto:lshen@mail.doshisha.ac.jp))
- 言語記述研究室 山内 信幸 MK715  
([nyamauch@mail.doshisha.ac.jp](mailto:nyamauch@mail.doshisha.ac.jp))
- 理論言語学研究室 星 英仁 MK711  
([hhoshi@mail.doshisha.ac.jp](mailto:hhoshi@mail.doshisha.ac.jp))
- 言語資源研究室 伊藤 紀子 MK708  
([nito@mail.doshisha.ac.jp](mailto:nito@mail.doshisha.ac.jp); <https://sites.google.com/site/nitolabcis/>)
- 音声学・音韻論研究室 田中 雄 MK611  
([yutanak@mail.doshisha.ac.jp](mailto:yutanak@mail.doshisha.ac.jp); <https://tanakayu.doshisha.ac.jp>)

## 言語データ科学コース

配属プロセス

### 言語データ科学コースの目標

- ・言語現象の解明に取り組み、「言語を科学する」研究の新領域を開拓する。
  - A. 人間属性の1つである言語の仕組みを分析することによって、人間とは何かを明らかにする。
  - B. 言語を分析することで、社会と文化の本質を明らかにする。
 

キーワード： 言語（音声と意味）の法則  
言語変化の法則  
言語生成のメカニズム  
言語コミュニケーション  
コーパス・テキストマイニング

### 担当教員（アルファベット順）



言語学  
足 英仁 教授



言語学  
伊 野 紀子 教授



言語学  
足 英仁 教授



言語学  
足 英仁 教授



言語学  
伊 野 紀子 教授



言語学  
足 英仁 教授

### コース全体の説明会

- ・時間：9月20日（金）16:30～
- ・場所：MK102

※希望者は必ず出席すること

- ・欠席者への対応方法：  
メールを用いて担当教員とアポイントをとること

### 配属の選考基準

以下の4項目について100点満点で評価する

- ・GPA 40点
- ・面接点 30点
- ・志望理由書 20点
- ・科目履修履歴 10点

※得点が同じになると、配属の順位付けは抽選になることに留意する。

### 面接に関して

- ・場所：担当教員の研究室
- ・方法：各研究室指定の方法（メールおよび予約システム）で担当教員とアポイントメントをとる
- ・持参物：学生証・成績通知書・志望理由書・教員コンタクト受付票

※志望理由書の内容をきちんと説明できるように準備しておくこと。

### 「教員コンタクト受付票」

- ・コース内説明会終了後、言語データ科学コースの各研究室への配属を希望する者は、ウェブサイトから「教員コンタクト受付票」をダウンロードし、必要項目を記入すること。
- ・各教員に事前のコンタクトを取り、面接時に配属希望を伝えた研究室にのみ提出すること。

※「教員コンタクト受付票」を配属希望研究室の教員に提出しない場合は配属されないので、たとえ面接がなくても必ず教員に提出する必要がある。

### 教員コンタクト期間

- ・9月19日（木）～10月11日（金）（マックス）
- ・やむをえず、この期間内にコンタクトを取ることができない人は各担当教員に事前に相談すること
- ・研究室によって面接可能な期限が異なるので、要注意。



星研究室：  
9月20日（金）～10月11日（金）  
配属希望者はメールにて事前にアポを取り、必ず面接を受けること  
hhoshi@mail.doshisha.ac.jp



伊藤研究室：  
10月1日（火）～10月11日（金）の指定の時間帯のみ、アポはAirReserveでのみ受け付ける（メール不可）。アポ可能日時およびシステムの利用方法については、伊藤研究室MK708前に設置の用紙を確認のこと。



金研究室：  
9月20日（金）～10月10日（木）事前のアポは、スケジュール確認のうえ、mjkn@mail.doshisha.ac.jpでアポを取ってください。面談可能日と時間に関しては研究室（MK612）のドアに記しておきますので、各自確認をお願いします。



沈研究室：  
9月20日（金）～10月10日（木）  
事前のアポは、スケジュール確認のうえ、lshen@mail.doshisha.ac.jpでアポを取ってください。面談可能日と時間に関しては研究室（MK710）のドアに記しておきますので、各自確認をお願いします。



田中研究室：  
10月1日（火）～10月11日（金）の指定の時間帯のみ、アポはAirReserveでのみ受け付ける（メール不可）。アポ可能日時およびシステムの利用方法については、田中研究室MK603前に設置の用紙を確認のこと。



山内研究室：  
9月19日（木）～10月10日（木）事前のアポは、至急スケジュール確認のうえ、メールでアポを取ってください。（nyamauch@mail.doshisha.ac.jp）詳しい日程・時間帯は、この説明会以降に訪問・面談可能日を研究室（MK715）のドアに記しておきますので、各自確認をお願いします。

### スケジュールまとめ

- ・7月10日・11日 全コースの説明会（必須）
- ・9月20日 言語データ科学研究コースの教員説明会（必須）  
コース所属教員6名による研究室説明があります。  
研究室紹介の冊子を配布します。
- ・9月19日～10月11日 教員コンタクト期間（マックス）  
面接を実施する。（教員によって面接実施日時が異なる）

※事前に学部HPから教員コンタクト受付票と志望理由書をダウンロード、記入し、面接時に成績表と合わせて持参すること。

研究室名: データサイエンス  
教員名: 金 明哲(きん めいてつ)  
研究室: MK612、MK209  
メール: mjin@mail.doshisha.ac.jp



本研究室での卒研は、履修者が興味を持っている諸問題についてデータサイエンスのアプローチによる分析に関する応用的研究やデータサイエンスに関する理論的研究など幅広く展開している。それらは大きくデータマイニング・機械学習とテキストマイニングという2つのブランチに分けられる。

## I. データマイニング・機械学習

データマイニング・機械学習は統計科学と計算科学などアプローチでデータから意味のあるパターン、情報や知識の発見と予測・識別に関する研究であり、人工知能とも関連している研究分野である。

本研究室では、従来の統計的データ解析手法と近年の機械学習手法を用いて、人文社会学における諸問題の分析や解決に関する研究を行う。研究対象は人文・社会における言語、スポーツ、音楽、絵画、民俗、メディア、マーケティングなどに限らず各自が興味を持っている研究意義がある諸事象である。

## II. テキストマイニング

テキスト型データとはメール、ツイッター、ブログ、日記、新聞、教科書、レポート、小説、歌詞、DNA配列など文字・記号列の集合体である。企業では営業日報、アンケート調査の自由回答文、コールセンターでの顧客とオペレータとのやり取りの記録、業務に関連するテキストデータやメーリングリストのログなどを大量に抱えている。これらのテキスト型データについて、一つひとつ目を通して分析するのは時間がかかり効率が悪い。また、人によって理解が異なり客観的に分析・評価し難いなどの問題がある。テキストを自然言語処理の技法で構成要素に分解し、その要素の使用特徴およびテキストとの関連性などを見つけ出すことをテキストマイニングと呼ぶ。近年テキストアナリティクスともよぶ。昨今、インターネットを含む大量のテキスト型データが蓄積され、テキストマイニングの活用が望まれている。

本研究室は、日本語、中国語、韓国語、英語、ドイツ語、フランス語などのテキスト計量分析の環境を整備し、ノウハウを蓄積している。文学・文化的な研究だけではなく、犯罪に関わる文章の書き手の同定に関する研究も行っている。また、テキストマイニングのツール MTMineR (エム・ティ・マイナー) を開発・公開している。

---

過去の卒業論文題目一覧はホームページに掲載している。

<https://mjin.doshisha.ac.jp/lab/graduate.html>



## 卒業研究ゼミの運営について

3年次には基本的には、専門科目の履修を最優先にし、秋学学期から卒業研究課題選定のため、先行研究調査などを始める。

4年次には、原則として毎週1回のゼミを行う。ゼミ時間と就活が衝突した場合、就活を優先する。ただし、後日証明となるものを提出しなければなりません。無断欠席は厳禁である。

## 卒業研究Ⅰ

### <授業計画>

春学期の第1～8週は、順番に各自が興味を持っている論文について、皆さんに解説し、全員が議論する。読む論文は、学会の論文誌に掲載されている論文、図書館の電子雑誌に掲載されている論文を推奨する。

春学期の第9～15週は、各自が読んだ論文を踏まえて、研究テーマの選定とそのデータ収集の可能性を含め研究の実現可能性について予備実験などを行ったうえで、研究計画書を作成する。また、その研究計画をゼミで発表し、皆さんと研究の意義、実現可能性などについて議論した上で、研究計画書をバージョンアップし、提出する。

### <成績評価基準>

成績評価の配分は、シラバスの記載とおりにする。本科目の単位の取得には、「研究計画書」を所定の手続きに従い提出し、副担当・主担当が「可」と認めることが必須である。

## 卒業研究Ⅱ

秋学期の第1～8週は、春学期の計画書の通り、データの収集・実験・分析などを行う。春学期の研究計画を無視し、新たに研究計画を立てることは原則的には認めない。毎週のゼミでは、順番で各自の研究の進行状況などについて発表・議論を行う。

秋学期の第9～12週は、データの収集・実験・分析の結果を用いて、論文執筆に着手する。ゼミでは前半同様、研究の進行状況などについて発表を行うと同時にアドバンス・コロキウムにての発表のリハーサルを行う。

秋学期の第13～15週は、卒業論文試問会の準備とリハーサルを行う。

### <成績評価基準>

成績評価の配分は、シラバスの記載とおりとす。本科目の単位の取得には、指定された「アドバンス・コロキウム」クラスにおいて卒業研究の内容を発表し、AまたはBの評価を得たうえで、所定の手続きにおいて卒業論文を提出し、さらに卒業論文試問会で「可」と判定されることが必須である。作成された論文に剽窃とみなす部分がある場合は成績をFとする。

---

より高度な研究や大学院にご興味のある方は院生のホームページを

研究室紹介：<https://mjin.doshisha.ac.jp/lab/>



## 2020年度言語生態研究室（沈力ゼミ）へのお誘い

<https://ling.doshisha.ac.jp/>



言語生態研究室では、学際的研究方法で言語の生態を解明することをコンセプトとし、言語記号の解析から、歴史的変化や接触による混合など言語の動的側面を総合的に捉えることを目指している。具体的研究課題として、まず「諸言語間で共通の事象構造が、如何にして諸言語間で異なる言語形式として表現されるのか」が挙げられる。この研究では、言語学的手法や計量的手法、そして認知科学的手法が必要となる。もう一つの課題として、「標準語の観察によって得られた研究成果は、歴史的文献や方言からどのように裏付けられるのか」が挙げられる。この研究では、Geographic Information System (GIS) やテキストマイニングの活用が必要である。研究指導のスケジュールは下記の通りである。

### 研究室所属の1年目について

言語生態研究室は、毎週か隔週に一回集合するというスタンスで研究指導を行う予定。

01. 四年次生の卒論研究会に参加し、ディスカッションに参加し、研究題目を吟味すること。
02. ジョイントリサーチ「言語生態と GIS\_07 (代表 沈力)」と「言語フィールドワーク演習\_19 (代表星英仁)」のどちらかに参加すること。
03. 読書会を定期的に行うこと。具体的スケジュール（後日相談）

### 研究室所属の2年目について

卒業研究ⅠⅡを、下記の予定どおりに完成することである。

#### 卒業研究Ⅰについて

01. 四月：「研究課題発表会」  
何が問題なのかを明確に示し、その問題を解決する見通しを発表する。  
教員の指導のもと、研究課題を決める。
02. 五月：先行研究の発表会  
研究課題に関わる先行研究の成果と問題点を紹介し、自分の研究の意義を明確にする。

03. 六月：予備調査とリサーチ

テキストやフィールドの予備調査を通して、研究の見通しを見つけること。

04. 七月：研究計画提出

先行研究の成果を踏まえて自分の研究課題の問題提起と研究方法について論じる。

**卒業研究Ⅱについて**

05. 九月：研究成果の発表会

主に、夏休み中に研究した成果を発表し、教員の指導を受ける。

06. 十月～十一月：個別指導

卒業論文の作成期間、アポイントをとり、教員の指導を受ける。

07. 十一月：中間発表

卒業できるかどうかは中間発表の評価によって判断する。

08. 十二月：論文提出

午前中に論文提出すること。

09. 一月十日以降：発表会

15分程度のPPTにまとめ、試問会向けの準備。

**<これまでの卒業研究課題例>**

- 「接尾辞研究—”-系”の生起条件を例にして—」
- 「事象タイプの研究—「-中」の生起条件を中心に—」
- 「名詞の意志性について」
- 「オノマトペ副詞に関する考察」
- 「日本語における語彙のなじみとは—とくに接頭辞の生起条件を中心に—」
- 「有対他動詞には使役が含まれるのか」
- 「日本語の語形成のメカニズムについて—とくに語の短縮現象を中心に—」
- 「サ変動詞の五段活用化条件」
- 「人工言語としての 에스ペラント語と自然言語の膠着語との比較研究」
- 「元代中国語の虚辞“de”について」
- 「フランス語からの借用語にみられる音韻現象—促音と長音を中心に—」
- 「日本語の受給動詞について—中国語と英語と比較して—」
- 「播州方言と東京方言における持続性の比較」
- 「東西対立から見る岐阜方言」
- 「鹿児島方言の動詞活用について」
- 「沖縄の方言の変化—那覇方言を中心に—」
- 「十津川村方言の動詞活用について」

## 2020年度言語記述研究室（山内信幸ゼミ：3年次生用）へのお誘い

山内研究室には、ことばになんらかの関心・興味のある学生が集い、現在、4回生16名（男性6名・女性10名）と3回生23名（男性7名・女性16名）が在籍しています。卒業研究の内容は、**言語に関わることであればなんでも可**ということで受け入れています。それぞれのテーマは多岐にわたりますが、対象とする言語は主として日本語です。

山内研究室の運営は、春・秋学期とも、**週1回のペース**で皆が一同に集まることを原則とします。春学期は、個別指導を中心に、具体的な研究テーマに沿った研究計画を紹介するとともに、最終的な研究テーマの絞込みを行い、「研究計画書」を完成させます。秋学期は、夏休み中の研究蓄積に基づき、春学期と同様に、それぞれの研究の進捗状況を報告し、担当教員や他のゼミ生からの質問に答える形で、よりよい内容に仕上げていくことを目指すとともに、個別指導も充実させます。また、4年次の9月初旬には、学部間協定を締結している台湾の淡江大学での「**淡江大学ショートビジットプログラム**」にも**参加（予定）**し、卒業研究の中間発表を行い、台湾の学生諸君らや教員からのフィードバックを受けます。

今年の就活も比較的順調ではありますが、今までは、金融関係・メーカー関係・IT関係などの一般企業希望が多く、他には、国家・地方公務員・大学院生も含まれています。

山内研究室では、ゼミの内外の活動をとおして、**一生つきあえる信頼関係・友情関係を構築**したいと考えています。そのためには、担当者はいかなる努力も惜しまないつもりです。文化情報学部での4年間の学びの集大成を実現する場として、**向学心に富んだ、人間的魅力にあふれる人物が集う**ことを心から願っています。

興味・質問などがあれば、**ぜひ研究室を訪ねてください**。なお、この説明会以降に面談可能日を研究室のドアに記しておきますので、**希望する方は、至急スケジュール確認のうえ、できるだけ早い時期に、大学のメールアドレスからのメールで研究室訪問・面接のアポを取ってください**。なお、**第1希望で出願される場合は、必ず10月5日（土）までに面接を済ませておいてください**。

[nyamauch@mail.doshisha.ac.jp](mailto:nyamauch@mail.doshisha.ac.jp)

以下、参考までに、第9期（2016年）～第11期（2018年）の卒研テーマ一覧を付けておきます。

### <2016年>

- ・食感ことばが人々に与える印象について－「ふわとろ」「もちふわ」等を中心に－
- ・女性誌から見る現代女性の姿の日米比較
- ・サラリーマン川柳に関する一考察－語・句と社会的要素に注目して－
- ・クチコミの内容による利用者の誘導性の比較－『食べログ』を参考にして－
- ・映画の予告編におけるキャッチコピーが人々に与える印象についての考察
- ・化粧品キャッチコピーの印象に関する一考察－女子大学生の視点から－
- ・流行歌の歌詞にみる言語の変遷－過去48年間のヒット曲を通して－
- ・ミュージカル映画吹き替え翻訳における歌詞の「一致度」についての一考察－ディズニー映画を題材として－
- ・テレビドラマのタイトルが及ぼす印象評価に関する一考察－学生のタイトルの感じ取り方に着目して－
- ・マンガにおける役割語の影響に関する一考察－『ONE PIECE』に着目して－
- ・日本語ラップの押韻に関する一考察－MCバトルを参考に－
- ・困難に直面する人に対することば掛けに関する一考察－励ましと慰めに焦点を当てて－
- ・「若者のテレビ離れ」とは何か
- ・キャッチコピーが購買に与える影響－小説の帯の印象評価を通して－
- ・本の帯のキャッチコピーと口コミから見る消費者イメージの関連

- ・色彩を含む共感覚表現と色彩との関係性について
- ・バイト敬語に対する印象についての一考察—大学生の視点から—

#### <2017年度>

- ・日本のプロパガンダ視点から見た“良い絵本”の一考察
- ・ストレス対処要因と対人ストレス要因に関する研究
- ・インターネットスラングの現状—分類と特徴—
- ・ネット怪談を巡る一考察—現代の妖怪・呪いについて—
- ・言語と文化価値志向の相関関係について
- ・服地の質感認知に与える感性語の影響
- ・手書き文字が他者に与える性格認識について—書き手の外見的特徴の印象を含めて—
- ・性差に着目した発話特徴からみる性格印象
- ・ディズニープリンセス作品における女性像の変化に関する一考察
- ・飲食店における景色の説明表現について
- ・就職活動時におけるソーシャルサポートのあり方—ことばによる声掛けに注目して—
- ・振り込め詐欺に見られる言質についての会話分析
- ・大学生の友人グループからみた「よっ友」の実態についての一考察
- ・大学体育会部員の怪我による成長に関する一考察
- ・就職活動でのグループディスカッションの言動における印象評価について
- ・一般用医薬品の印象と購買選択についての一考察
- ・タイトルとサムネイルの魅力の明確化—「Retrip」における「抹茶」記事に着目して—
- ・訪日外国人の観光地に対するロコミの印象評価—京都の観光地に着目して—
- ・好印象を与える商品ネーミングの要因分析
- ・購買意欲を誘引させるお菓子の商品パッケージの特徴
- ・自然言語処理における重要語を利用したニュース記事の見出し生成方法の確立—「ヤフー・トピックス」を利用して—

#### <2018年度>

- ・スポーツドリンクのパッケージにおける印象
- ・大学生におけるおしゃれの判断基準
- ・ラジオ離れを防ぐ方法とは
- ・折り紙の説明文を通して見るわかりやすさとわかりにくさの要因に関する考察
- ・発話者の性質に着目した共話の会話パターン分析について—対談番組に着目して—
- ・商品のキャッチコピーがもたらす消費者の購買意欲への影響
- ・家族関係や性格から見る交際人数の差に関する一考察
- ・韓国人の人称表現使用に関する考察—家族関係を中心に—
- ・青年期の母親からの言葉かけと大学生がもつ自己肯定感と性格特性への影響に関する研究
- ・兄弟・姉妹構成及び家族との関わり方から見る人間関係
- ・文章評価の諸要因の解明—エッセーを題材として—
- ・同志社大学生と若者語及び新島語の関係性に就職活動が及ぼす影響
- ・Web ニュースにおける記事の見出しの受容度について
- ・都道府県別観光地における傾向—ゴールデンルートに着目して—
- ・ネガティブな場面に直面する人物への言葉かけにより生じる感情
- ・新入社員における労働意欲と上司からの言葉かけの関係 —「褒め言葉」と「叱り言葉」に着目して—
- ・上司の言葉かけと部下の受容の仕方
- ・読書意欲を高めるビジネス書のタイトルに関する考察
- ・若者の自国に対する愛着と対外国意識—国際比較調査—

理論言語学研究室での卒業研究について

星 英仁 (MK711)

hhoshi@mail.doshisha.ac.jp

<研究室の概要>

「言語の知識とは何か」「言語の知識どのように獲得されるのか」「言語の知識どのように使用されるのか」「言語の知識は脳内でどのように具現しているのか」など、言語の普遍的・本質的課題に取り組み、記述的・理論的・実験的研究をおこなう。

<研究対象>

講義「ことばの科学」で扱ったような自然言語に関わる現象であること。

<出席しなければならない講義>

春学期：水1「統語論」、水2「ジョイント・リサーチI-19」、木3-5「ゼミ演習」

秋学期：水2「ジョイント・リサーチII-19」、木3-5「ゼミ演習」、金2「言語と脳科学」

<2年間の主なスケジュール>

➤ 3年次：※毎週木曜日の3-5限を空けておくこと。

2019年11月：顔合わせ会

2020年4月以降：ゼミ演習参加（4年次生の発表を聞き、質問・コメントをする）、個別研究（アポイントメントを取って研究の進捗状況を報告・相談）

8月下旬：合宿参加（2泊3日、3年次生は研究テーマ選びの中間発表をおこなう）

2021年3月：研究テーマの最終決定、研究計画書初校提出（3/31締切）

➤ 4年次：※毎週木曜日の3-5限を空けておくこと。就活を理由にゼミや合宿を欠席することは原則として認めない。

4月-7月：ゼミ演習（毎週木曜日3限から開始）

7月：研究計画書最終版提出（春学期講義最終日締切）

8月下旬：合宿参加（2泊3日、4年次生は卒研の中間発表をおこなう）

9月：卒論草稿1（6,000字）提出（9/15締切）

10月：ゼミ演習（コロキアム発表練習）、個別研究

11月：卒論草稿2（12,000字）提出（11/15締切）

12月：卒論提出（12月講義最終日締切）

2022年1月：試問会

<研究室配属方法>

**面接の実施**：配属希望者はe-mail で事前にアポを取り、**9月20日(金)～10月11日(金)**の間に**必ず面接を受ける**こと。面接では志望理由、言語研究への意欲、言語科目の履修状況、講義で学んだ内容について質問し、評価する。配属希望者は「ことばの科学」を履修済みであること。春水1「統語論」、春秋水2「ジョイントリサーチI, II-19」、秋金2「言語と脳科学」を履修予定であること。

<理論言語学研究室に不向きな人>

**ミスマッチを避けるため**、以下の項目に該当する人は理論言語学研究室への配属を**絶対に希望しないでください**：言語に興味がない人、講義やゼミなどにきちんと出席できない人、英語論文を読むことにチャレンジできない人、自分で考えることを面倒に思う人、他人と協力することを拒む人、就活を優先したい人、研究の進捗状況をこまめに報告・相談できない人

<メッセージ>

理論言語学研究室で卒業研究をおこなう際に、大切な「**約束事**」が2つあります。1つは『**自分の力で研究テーマを見つけよう**』です。最終的には私とアポイントメントを取って選んだテーマについて議論し、決めることとなりますが、まずは自分で考えることが必要です。テーマを見つけるためには深く考えることが要求されます。そのテーマを探求する価値がどれだけあるのか、どのような結果が得られると予想できるのか、予想した結果が何を意味するのか、そもそもどうしてそのテーマをやってみようと思ったのかなど、その研究が持つ可能性について考えを巡らせることにより、卒業研究を最後までやり抜く力を身につける準備ができるのです。

もう1つは『**少しでも感動してもらえるような研究をしよう**』です。「感動」と言うと大げさかもしれませんが、英語だと“move”と訳すことができますので、もう少しだけ言えば「心を動かす」ということになるかと思います。卒業研究の内容の一部は「コロキウム」という授業を通じ、後輩の前で発表してもらうこととなりますが、その時に「あ、おもしろいなあ」とか「こんな研究をやってみたい」など、研究している本人だけでなく、他の人の気持ちを少しでも「動かす」ことができるような研究を目指してほしいと思います。アカデミックな内容だけが人を感動させるものではありません。時間と労力をかけ、「少しでも理解したい、明らかにしたい」という思いを含め、あきらめずに研究すれば、その真剣さが必ず伝わります。それも感動を生み出す要因の1つになるのです。感動したり、感動させたりすることによって、そこから何かを学びとり、卒業後の人生をもっと豊かにしていくことができるはずです。

言語に興味がある人、言語を話す人間に興味がある人、いろいろなことから深く、徹底的に考えることが好きな人、「なぜ」を追求したくなる好奇心旺盛な人、「星組」で一緒に勉強してみませんか。

# 言語資源研究室 卒業研究について

言語データ科学コース 伊藤 紀子 MK708

---

## <「卒業研究」のシラバス概要>

言語資源研究室では、普段なにげなく使っているコトバに関する研究を行う。言語資源とは、ヒトが持っているコトバに関する様々な知識をコンピュータが利用できる形にしたものことである。例えば、日本語でヒトとコミュニケーションができるコンピュータやロボットを作るためには、日本語の音声、単語、文法、意味や日本語文化圏でのコミュニケーションの決まりごと（敬語の使い方など）をコンピュータに教える必要がある。そこで、実際の会話を録音したものやアンケート調査を行った結果を分析して、今まで気がつかなかったコトバの法則を発見し、ヒトと自然な会話ができるコンピュータの開発に役立てることを目指す。

春学期は、卒業研究のテーマを確定するため、先行研究調査と予備的データ収集・分析を行い、自分が思い描いているテーマの学術的な意味と実行可能性を見極める。それと平行して、卒業論文を作成する為に必要なソフトウェアの使い方も学ぶ。受講生は、学期中に計3回（自分の研究テーマについて2回、先行研究について1回）発表することが求められる。

秋学期は、卒業研究を完成させるため、データ収集・分析を行い、その結果を卒業論文としてまとめる。受講生は、論文提出までに最低2回は担当教員に原稿を提出し指導を受けること、学期中に計3回（卒論の進捗報告をゼミ内で1回、コロシアムで1回、口頭試問練習をゼミ内で1回）発表することが求められる。

## <到達目標>

自ら言語データを収集し、言語学および関連分野の先行研究との比較を交えて多様な言語現象の分析を行い、その結果を適切な形式で論述および口頭発表できるようになる。言語・統計分析および論文執筆に必要なソフトウェアを自由自在に使えるようになる。

## <参考文献>

- ・ 石川 慎一郎・前田 忠彦・山崎 誠，編 『言語研究のための統計入門』(くろしお出版、2010)
- ・ 石田 基広・金 明哲，編 『コーパスとテキストマイニング』(共立出版、2012)
- ・ 岡本真一郎，編 『ことばのコミュニケーション：対人関係のレトリック』(ナカニシヤ出版、2007)
- ・ 岸江信介・田畑智司，編 『テキストマイニングによる言語研究』(ひつじ書房、2014)
- ・ 金 明哲 『テキストデータの統計科学入門』(岩波書店、2009)
- ・ 竹内理・水本篤，編著 『外国語教育研究ハンドブック－研究手法のより良い理解のために－』改訂版(松柏社、2014)
- ・ 樋口 耕一 『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－』(ナカニシヤ出版、2014)
- ・ 坊農真弓・高梨克也，編 『多人数インタラクションの分析方法』(オーム社、2009)

## 伊藤研 3 年生の活動

(時間割は2019年度、年度によって変更の可能性あり)

<下記の授業を履修する>

- ・ ジョイントリサーチ : 阪田研と合同、春-火 2、秋-水 2、2020年度は波多野研・河瀬研と合同
- ・ 言語行動論 (3年次~) : 春-火 4 のクラスを新規開講予定
- ・ コーパス言語学 (2年次~) : 春-木 3
- ・ ことばと社会 (1年次~) : 秋-木 3

<4年生ゼミに参加する>

- ・ 全体ミーティング: ほぼ毎週、春-水 2、秋-月 3
- ・ 4月末のテーマ発表会
- ・ 8月初めの中間発表会
- ・ 1月末の口頭試問会

<研究計画書を作成しはじめる>

- ・ 2月中に初稿提出
- ・ 2~3月に個別ミーティングを通して精緻化

### ♪♪♪ 研究室訪問・面接希望の方へ ♪♪♪

過去の卒論のテーマ等の情報は研究室HPにアップしていますので、アポを取る前に必ずHPを見てください。

<https://sites.google.com/site/nitolabcis/home>

研究室訪問・面接は、10月1日(火)~10月11日(金)の指定の時間帯に行います。**アポはAirReserveでのみ**受け付けます(メール不可)。

アポ可能日時およびシステムの利用方法については、下記のURLおよび伊藤研究室MK708扉に掲示の用紙を確認してください。

伊藤研究室「アポイントメント」のページ

<https://sites.google.com/site/nitolabcis/lab-member/appointment>

AirReserveの使い方については、

<https://faq.airreserve.net/hc/ja>

\* 一人で複数のアポを同時に取るのはやめてください。

\* 都合が悪くなった場合は、キャンセルしてから、アポを取り直してください。

(複数アポを取ったり、ドタキャンを繰り返すなど、他の人に迷惑となるような行為が見られる場合は、こちらでアポを取り消すことがあります。)

## 【音声学・音韻論研究室】

田中雄 ✉ yutanak@mail.doshisha.ac.jp ☎ MK611, MK603

### 1. 研究室の概要

本研究室は、「ことばの音」について研究します。大きく分けて下記の2つの観点があります。

- 音声学：
  - 言語の音の「物理的特徴」を探る
  - 言語の音はどのように口でつくられ、空気を伝わり、耳に聞こえているか
- 音韻論：
  - 言語の音の「心理的規則」を探る
  - 言語の音はどのような規則性を持ち、話者の心理内で作用しているか

卒業研究では、これらの観点から、より具体的な疑問を見つけて問題設定をします(2を参照)。その検証には、様々な手法を用いてことばの音のデータを集めて分析します(3を参照)。

### 2. 研究の対象・テーマ

音声学・音韻論の研究のきっかけは、身近なところに転がっています。なぜ日本語話者は英語の“l”と“r”の音を聞き間違えるのでしょうか。なぜ「スマートフォン」は「スマホ」と略されるのでしょうか。なぜ子どもはよく「エレベータ」を「エベレータ」と言うのでしょうか。これらは素朴で小さな疑問ですが、突き詰めていけば立派な研究のテーマとなる可能性があります。以下、ゼミ生の卒業研究と担当教員の研究テーマを一部紹介します。

卒業研究のテーマの例(\*論文のタイトルではありません)

- オノマトペの濁音の印象測定 — 例：コロコロ vs. ゴロゴロ
- 自動車のネーミングの分析：濁音と大きさの印象の関係
- ポケモンカードの技名の分析：濁音と強さの印象の関係
- 心理内における漢語と和語の区別：複合語の読み方実験による検証
- 短縮形の規則性と要因：なぜ「ファミマー」ではなく「ファミマ」なのか
- 形容詞の音変化の規則性と要因 — 例：たかい → たけえ；あつい → あちい
- “棒読み”は話の内容理解を妨げるのか：ジャンケンを用いた実験による検証
- 映画の吹き替えに伴う違和感の要因：動画実験による検証
- レゲエとヒップホップの違い：韻の踏み方の比較

担当教員の研究テーマの例

- 日本の苗字の濁音化の規則性 — 例：島田(しまだ) vs. 柴田(しばた)
- 日本語のあだ名作成の規則性 — 例：やまぎき → ザキさん
- 関東・関西方言のアクセントの違いの理論的分析 — 例：バナナ vs. パナナ
- 日本語のアクセントのパターンの統計モデルを用いた分析
- 英語のストレスの移動と母音の変化の規則性
- インドネシア語の“b”音と“d”音の物理的特徴

### 3. 研究の手法

研究では、上に挙げたような問題を科学的に検証します。例えば下記のような手法を用います。

- 録音・知覚実験：話者の発話を録音して分析；音声を聞かせてその反応を分析
- 心理言語学実験：話者に単語を提示して、その反応や質問への回答を分析
- コーパス研究：インターネットや雑誌に登場する単語を収集・分析

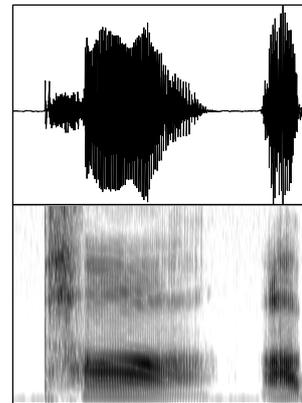
このような手法を的確に用いるには、専用ソフトウェアを使う技術やコンピュータ・スクリプトを書く技術などが必要です。また、それぞれの研究課題・目的に合わせて、どの手法を用いるべきか判断するための知識も必要です。これらは主に、3・4年次の授業やゼミの活動を通して学んでもらいます(4を参照)。

### 4. 研究室の活動

3年次の「ジョイントリサーチ」では、講義形式の授業で音声学・音韻論の知識を深めながら、演習形式の授業で実際に実験をデザイン・実施して結果分析をすることで研究手法を学びます。4年次には「卒業研究」の授業(ゼミ)および個別ミーティングを週に一度実施します。ゼミでは主に先行研究について議論したり、研究の発表会を行ったりします。

#### 3年次末～4年次スケジュール

- 12-3月 先行研究レビュー；研究テーマの決定
- 4月 適切な研究手法を検討
- 5-6月 予備実験・調査実施
- 7月 研究計画書作成・提出
- 8-9月 実験・調査の実施；卒業論文執筆開始
- 10月 実験・調査結果報告；コロキウム発表
- 11月 卒業論文草稿提出
- 12月 卒業論文提出
- 1月 口頭試問会



音声波形・声紋の例

### 5. 配属希望の方へ

2年次生は、言語データ科学コースの説明会に出席の上、所定の期間に所定の方法で面接の申し込みをしてください。何らかの事情で3年次以降に配属を希望する場合も、必ず直接連絡をしてアポイントメントを取り、面接を受けるようにしてください。

音声学・音韻論の研究をするには、「ことばの音」に関する基礎知識が不可欠です。4年次までに(どうしても不可能であれば4年次に)必ず「世界の諸言語」と「音韻論」の授業を履修してください。

また、広く言語学の知識を身につけるためにも、「ことばの科学」、「言語研究の方法1」、「コーパス言語学」などの言語データ科学コースの授業を少しでも多く履修してください。実験等で集めた言語データを分析するには、統計学の基本的な知識も必要になります。授業でしっかりと勉強してください。

研究をするには、「好き」「おもしろい」「知りたい」という気持ちを持つことが大切です。「言語の音」が好き、「言語の音」について興味がある、疑問があるという方は、ぜひ音声学・音韻論研究室の扉をたたいてみてください。